

「いわてっこ」の期待生育量と栽培法(一部改定)

「いわてっこ」の期待生育量と栽培法について平成13年度以降のデータを考慮して改定した。内陸は籾数27~33千粒/m²、稈長は75~85cm、登熟歩合85%以上、県北・沿岸は籾数23~30千粒/m²、稈長75~80cm、登熟歩合85%以上である。基肥窒素量はたかねみのりより減肥又は、あきたこまち並みとし、追肥は幼穂形成期とする。

(1) 期待生育量

	収量水準 (kg/10a)	穂数 (本/m ²)	一穂籾数 (粒)	籾数 (千粒/m ²)	玄米千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	稈長 (cm)
内陸	550~600	420~500	62~69	27~33	22.5~23.5	85%以上	75~85
県北・沿岸	450~550	390~480	58~65	23~30	22.5~23.5	85%以上	75~80
(参考)H13指標	500~550	420~500	65	27~33	22.7	80~90	75~85

*収量水準及び玄米千粒重は1.9mm篩の数値

**内陸は岩手地域以南、県北は二戸地域、沿岸は久慈、宮古地域

(2) 栽培法

基肥窒素量	追肥時期	栽植密度
たかねみのりより減肥、 又はあきたこまち並み	幼穂形成期追肥 を基本とする	約22株/m ²

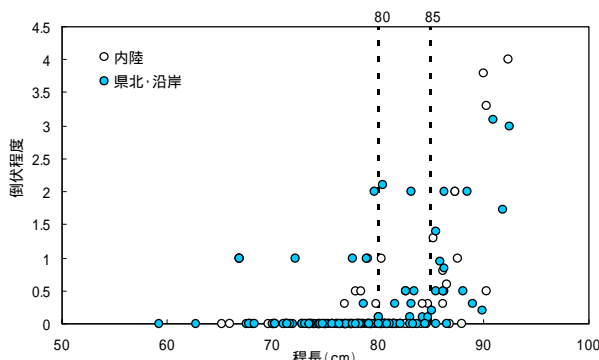


図1 稈長と倒伏程度の関係

*倒伏程度は0:無倒伏~5:完全倒伏の6段階

圃場全体の倒伏程度は倒伏程度×倒伏程度ごとの面積比率で示す。

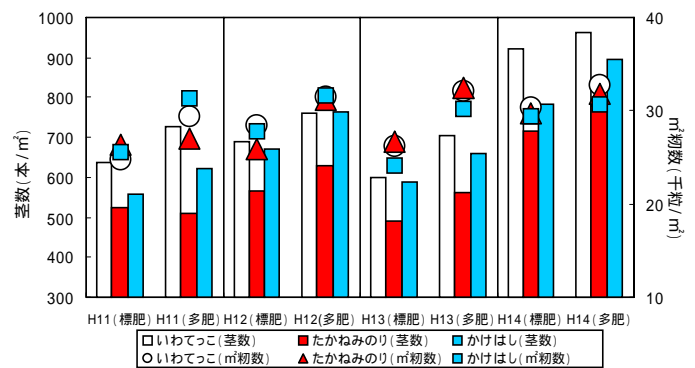


図2 品種別7月上旬茎数とm²籾数(H12~H14、軽米)

*県北研究所、栗決、施肥条件は標肥:基肥6kg+追肥2kg=8kg/10a、多肥:基肥8kg+追肥3kg=11kg/10a、追肥は幼穂形成期追肥

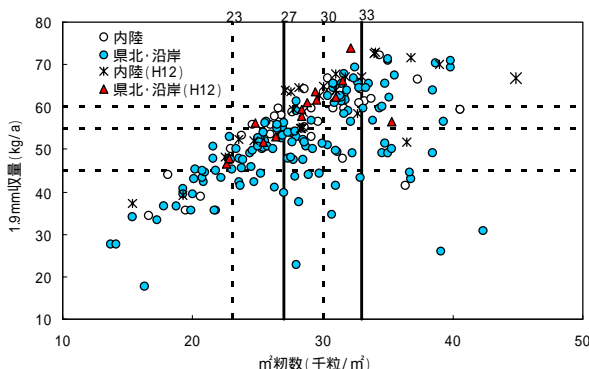


図3 m²籾数と1.9mm収量の関係

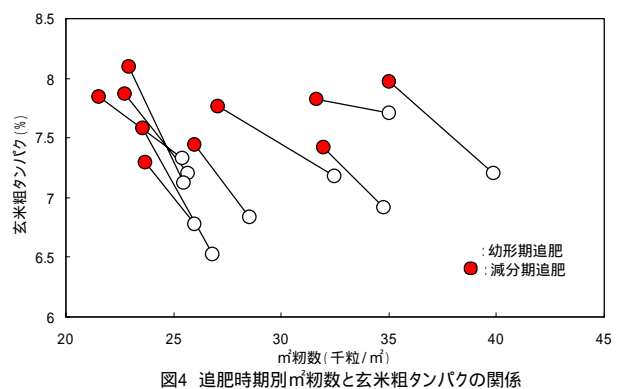


図4 追肥時期別m²籾数と玄米粗タンパクの関係